

## 緑がつなぐ町・人・暮らし

一般財団法人第一生命財団では、公益財団法人都市緑化機構と共に、「緑の環境プラン大賞」(共催)、「緑の都市賞」「屋上・壁面緑化技術コンクール」(いずれも特別協賛)の、「都市の緑3表彰」に取り組んでいる。これらは、都市緑化を通じ、環境保全、ヒートアイランドの抑止、二酸化炭素の削減、緑のまちづくりや植栽活動を通じたコミュニティの形成などに貢献する事業を支援、顕彰するもので、全国各地で、すでに多くの取り組みが実績をあげている。これらに選出された事業のなかから、とくに都市環境の向上やまちづくりに資する事例を取材し、緑を通じたまちづくりを紹介していく。

取材・文:斎藤夕子 photo:坂本政十郎

## 「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」

屋上・壁面緑化技術コンクール 国土交通大臣賞:  
壁面・特殊緑化部門

長年、大阪・梅田駅前で歴史を刻んできた大阪神ビルディング(阪神百貨店)と、市道を挟み隣接する新阪急ビルが、2022年2月、地下3階、地上38階、延べ床面積約26万㎡、高さ約

190mに及ぶ大規模複合ビル「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」として生まれ変わった。阪神百貨店(阪神梅田本店)がリニューアルオープンした低層棟(地下2階～地上9階)と、オフィ

スフロアとしての高層棟(地上11階～38階)からなり、低層棟では、従来親しまれてきた、街路に対して緩やかに湾曲したファサードの形状がそのまま再生されている。ただ、その印象は大



●2022年2月に竣工した「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」



左●バルコニーから豊かな植栽が溢れる  
上●11階のオフィス棟ホールからバルコニーの緑を望む

きく変わった。動きを感じる平行四辺形のアルミパネルが、密度の異なる格子を描くように連なり、その表層に空や街並みをまとうように映し出している。さらに、格子状の窓からは豊かな植栽が溢れる。緑の存在がソリッドな印象のアルミのファサードを有機的に感じさせ、都市と自然が調和した、現代的な表情を見せている。

## 高品質な緑を維持するために

大阪梅田ツインタワーズ・サウスの緑化計画を手掛けたのは、阪神園芸株式会社だ。同ビルの施工事業者の一員として、緑化エリアを自社の保有資産

とするかたちで設計から継続的な維持管理までを担っている。

「大阪梅田ツインタワーズ・サウスを再開発するにあたり、地区計画において敷地全体の約1500㎡を緑化することが要件とされました。その解答として整備したのが、屋上・壁面緑化です。しかし壁面緑化においては、西～北～東面に向かって湾曲したファサードの場所ごとに日照や気温が異なるほか、高層ビルが立ち並ぶ都心部ではビル風などの特別な気象条件もある。そのなかで約1500㎡の緑のボリュームと品質を、常時保つことができるのかという課題もありました。このため、

2022年の竣工まで、およそ6年かけて綿密な実証実験を行ったうえで施工したという経緯があります」

そう教えてくれるのは、阪神園芸株式会社代表取締役社長の久保田晃司さんだ。また、同社理事であり造園本部副本部長・造園工事部長の田邊晋治さんも次のように話す。

「竣工から2年経った現在、緑の環境はより豊かなものになっています。これも、プロジェクトの最初の段階からデベロッパーと一緒に、植栽の育成に必要な土のボリューム、透水性などを考えながら緑化空間を設計できたことが大きい。貴重な商業床になる面積を



左●低層棟の屋上に設けられた庭園。オフィスワーカーだけでなく、一般の人も利用できる  
上●木陰のベンチでくつろぐひとときは、仕事の疲れを癒してくれそうだ



●壁面緑化を構成する「メッシュプラス」のモデル展示

削って緑化しているわけですから、それだけの価値を損なわないものにしなくてはならないという思いで、維持管理を行っています」

大阪梅田ツインタワーズ・サウスでは、低層棟の外壁バルコニー(3~9階)約700㎡、12階の屋上広場約800㎡の合計約1500㎡が緑化エリアになっている。これらを日常的に管理しているのが、「ガーデナー」チームの4名。その一人、同社造園本部 施設管理部本店管理課主任の菊川楓月さんに案内してもらいながら、緑化エリアを見学する。まずは12階の屋上庭園。ここにはシンボルツリーであるケヤキの他、サクラやモミジなどの樹木、ツワブキやシランなどの草花が広場や通路を囲むように配され、屋上とは思えないほどの緑のボリュームが実現していた。植栽された植物は、屋上、壁面緑化共に、淀川水系と六甲山系の自生種を選定している他、花の開花時期や紅葉を通じて、季節感が感じられる植物をバランス良く組み合わせているという。

屋上の一角に、壁面緑化に使用され

ているプランター「メッシュプラス」のモデルが展示されていた。網状のフレームに固化培土、不織布、オリジナルブレンドの人工軽量土壌を組み合わせたプランター内には、モミジ、ツワブキ、アジサイ、アオキなどが植栽され、立体的な緑の塊を構成している。外壁バルコニーには、湾曲する形状に合わせた大小6種類のメッシュプラスが合計で487基設置されているという。

「外壁バルコニーは1フロアで全長約240mあり、通路の幅は約60cm。出入口は東端に1箇所しかないで、1フロアずつ往復しながらメンテナンスを行っています。プランター内の土壌水分量や温度は常にセンサーで監視され、異常があれば私たちのスマートフォンに通知が届き、遠隔でも灌水操作できるシステムがつけられています。弱っている草木がないか、枝が折れて落下しないかなど、実際に見て、対応する必要があります」と菊川さん。また、壁面緑化は直下が歩行通路になっているため、とくに落下物には細心の注意を払っており、剪定鉋やバケツなど、持ち出す道具にはすべてリード(紐)を付けている他、チェックリストをつくり、バルコニーへの置き忘れがないかも常に確認しているという。

竣工までの実証実験のなかでは、高所の狭いバルコニーでの作業の安全面・技術面を検証するためのメンテナンス動作実験も行ったという。「私自身、これだけの大規模施設での緑化事業に携わるのは初めてなので、スタッフと共に管理マニュアルをゼロから検討し、つくってきました。常に高品質な緑を維持することを心がけ、竣工当時よりも、時間が経つほどに良くなる

緑化環境をつくっていきたいと考えています」と菊川さんは笑顔で語る。

### ●地域と連携し、都市環境を向上

さらに、大阪梅田ツインタワーズ・サウスは、都市再生特別措置法に基づく事業であることから、施設単体の緑化のみならず、建物の周辺約1kmにおよぶ歩道上の緑地も同時に整備された。そのうえで、地上~壁面~屋上へと緑が一体的につながる「パーチカルフォレスト」として、生物多様性の向上を目指し、鳥や昆虫が地上から屋上へと飛来するように、特定の食餌・吸蜜植物を計画的に配置したという。その成果についても、菊川さんらガーデナーが日々観察、記録しており、菊川さん自身は、大阪府のレッドリストで準絶滅危惧種に指定されているトンボ「サラサヤンマ」を発見したことがあるそうだ。

またビルの竣工に先駆けて発足した一般社団法人梅田1丁目エリアマネ



●長く狭い通路でのメンテナンス作業。ガーデナーのユニフォームも、施設のイメージにあう洒落たスタイル

ジメントおよび、兵庫県立大学大学院、兵庫県立淡路景観園芸学校と連携し「梅ーグリーンプロジェクト」も展開している。緑をテーマにしたワークショップやイベントなども開催しながら、緑を通じたまちづくりにも取り組んでいる。ビルの南側地上階に設けられたショーウィンドウを「みどりのコンシェルジュSTATION」と位置付け、梅ーグリーンプロジェクトの内容を記したビジュアルパネルやガーデナーが使用する道具の展示なども行い、街行く人々やエリアワーカーに、都市緑化に関心を抱いてもらうための仕掛けも施している。

「大阪では現在、駅の北側、旧梅田貨物駅にあたる約24万㎡のエリアで新駅開業を含む大規模再開発が行われており、2027年度に全体のまちびらきが予定されています。これが完成すれば、駅前にかなり広大な緑地空間が構成されることになり、都市緑化への関心も高まると思うのですが、商業やビジネスの場における緑の必要性については、まだまだあまり認識されていないと感じています。ですから、このビルの存在を通じて、都市緑化への認識を高



●地上部分に設けられた緑地。梅ーエリアマネジメントによりベンチも設置された

め、緑が身近にあることの心地よさを実感してもらいたいと考えています」(久保田さん)

屋上・壁面緑化を施しているビルは全国的に少なくない。それらは当然、外部の造園事業者など、専門家により適切な管理が行われ、維持されているはずだが、ここ大阪梅田ツインタワーズ・サウスでは、阪神園芸が緑化エリアを自社の資産として管理しているという点でそれらとは大きく異なる。だからこそ、エリアマネジメント組織との協働によるまちづくりへの主体的な

かわりも可能にし、地域貢献としての緑の保全にも全力で取り組むことができる。このことから、阪神園芸では新築やリニューアルにより施設を緑化する際に、緑化エリアを保有するかたちで、計画から維持管理、利活用までのサービスをワンストップで提供する「みどりのサブスク」事業もスタート。緑を守り育てる企業として、高品質な緑の環境を広げようとしている。

大阪梅田ツインタワーズ・サウスでの試みは、都市緑化を推進するうえで、新たな可能性を拓いたといえそうだ。



左●ビル南側のショーウィンドウ「みどりのコンシェルジュSTATION」

上●阪神園芸株式会社代表取締役社長の久保田晃司さん(右)、同社理事で造園本部副部長・造園工事部長の田邊晋治さん(左)、同社造園本部施設管理部・本店管理課主任の菊川楓月さん